



国土交通省 九州地方整備局

# 九州管内におけるストック効果

～ 社会資本整備による地域経済への効果事例 ～

河川整備と街づくりにより  
安全で活気あるまちへ！

高速道路ネットワーク整備で  
観光・産業を支援！



アジアの成長力を  
引き込む

日本の成長センター  
「ゲートウェイ九州」を  
目指します！！



新しい風を西から  
起こす

道路と港湾整備により  
林業再生！

コンテナターミナル整備等で  
九州の主要産業を支える！



# 蘇った紫川人々が集う都市の「顔」に！



紫川改修事業・下水道事業(福岡県)

● before

➡➡➡ ● after



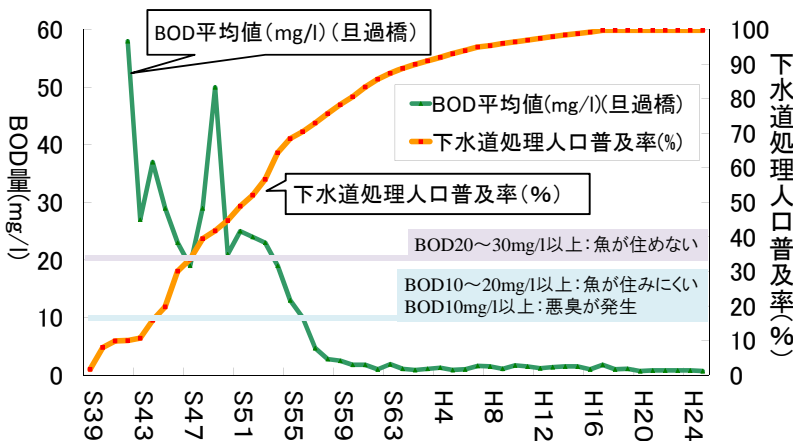
昭和50年代前半



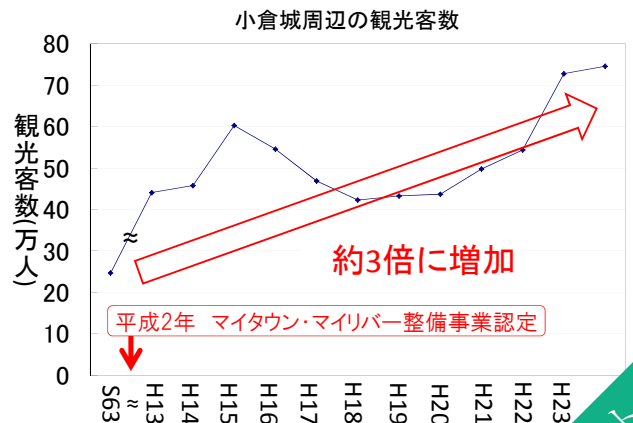
平成27年

- 紫川の河川改修にあわせ、川を中心とした一体的なまちづくりを推進し、九州の玄関にふさわしい都市の「顔」としての水辺空間を創出、北九州市は、治水安全度を向上させ環境の街へ
- また、紫川は、以前死の川と呼ばれていたが、下水道処理人口普及率の増加もあり、水質は改善。
- 約2,000億円以上の民間開発の誘発や、観光客数が大幅増加と地域が活性化

紫川の水質と下水道処理人口普及率(平成25年度末)



紫川と周辺の整備事業効果



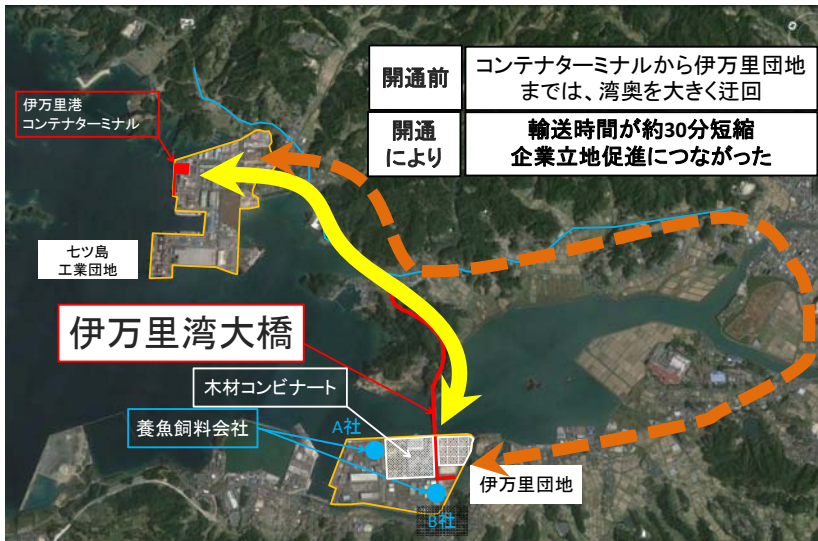
ストローク効果

# コンテナターミナルと連絡橋が九州の養殖漁業と林業を支える

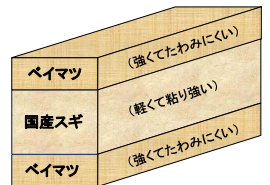
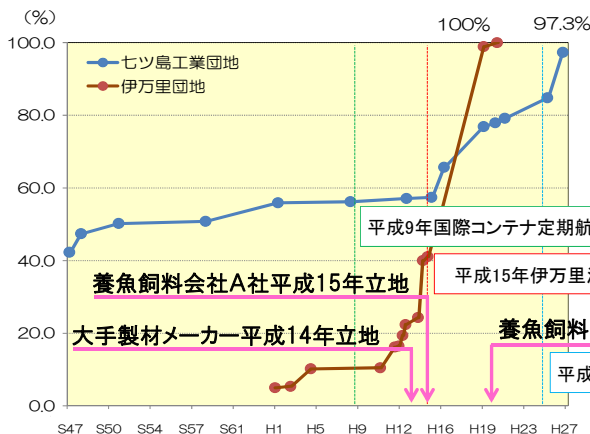


● before >>> ● after

- 国際コンテナターミナルの整備により、国際コンテナ航路が開設
- 平成15年に伊万里湾大橋が完成。同年、対岸に養魚飼料会社A社が立地
- 平成16年に養魚飼料の原料の魚粉の輸入量が日本一になるなど、伊万里港は養魚飼料の原料の日本最大級の輸入拠点に
- さらに平成20年に養魚飼料会社B社が立地するなど、伊万里港が九州一円の養殖漁業を支えている
- また、異樹種集成材を製造する大手製材メーカーの拠点工場を中心に木材コンビナートを形成、九州の林業を支えている



工業用地分譲率の推移



異樹種集成材のイメージ

● 企業立地動向(工業用地分譲率)

伊万里団地	41%	>>>	100%	進出企業17社
七ツ島工業団地	57%	>>>	97%	進出企業16社
			(平成15年)	(平成26年)

雇用の増加

養魚飼料会社B社: 約50人  
大手製材メーカー: 約170人など

ストローク効果

# サバの価格が4倍に 出荷戦略を支える西九州自動車道



西九州自動車道(長崎県)

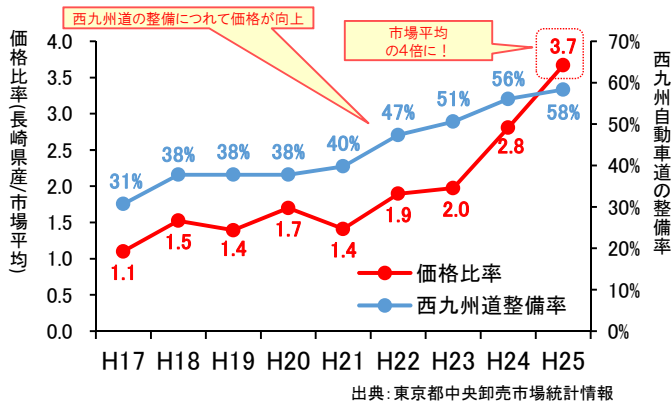
● before >>> ● after



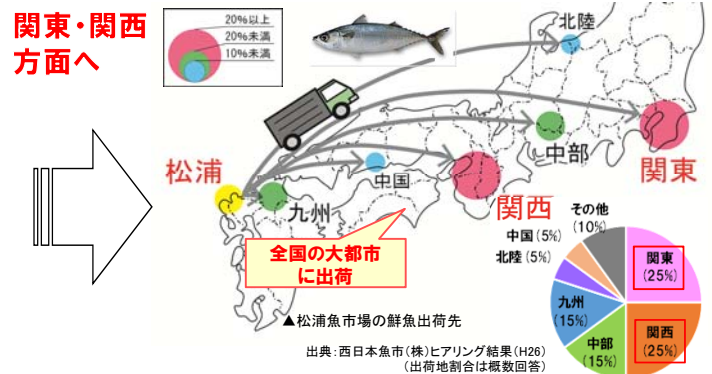
1 松浦漁港(長崎県松浦市)の「さば」は全国3位の水揚量

2 西九州自動車道の整備につれて、新鮮なサバを安定供給、市場を選択しながら出荷できるようになり東京卸売り市場での取引価格が向上、漁業就業者の一人当たりの生産額が増加

長崎県産「さば」の東京卸売市場の平均取引価格



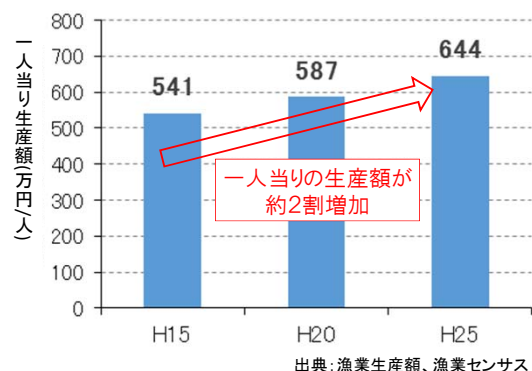
## ■どこの市場が有利か戦略的に出荷



## <西日本魚市(株) ヒアリング結果>

- ・西九州自動車道の整備により時間短縮された分だけ、出荷時間を遅らせることができ、加工時間の確保や出荷量の増加が期待
- ・短縮時間で他漁港の出荷状況の把握が可能となり、市場での価格低下を防ぎ、安定した価格での取引が可能

長崎県の漁業就業者一人当たりの生産額



ストローク効果

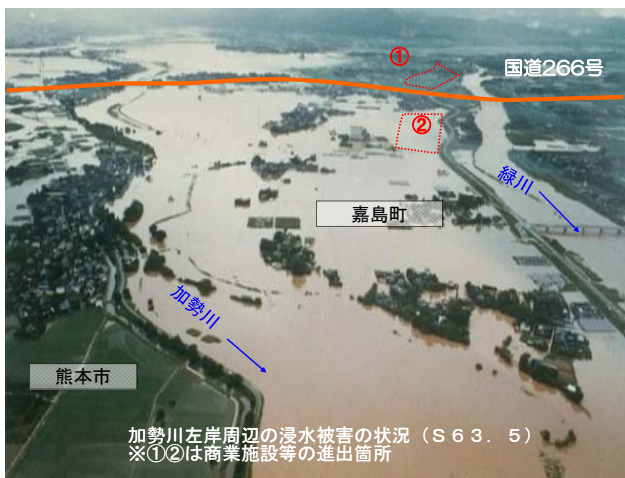
# 堤防できた！水害リスク減った！ 商工業団地がうまれた！



加勢川改修事業(熊本県)

● before

整備前の浸水被害の状況(S63.5)



加勢川左岸周辺の浸水被害の状況 (S63.5)  
※①②は商業施設等の進出箇所



● after

整備後(H22.3)



従来より洪水による浸水被害が頻発していたが、平成11年の堤防完成後、浸水被害は発生していない

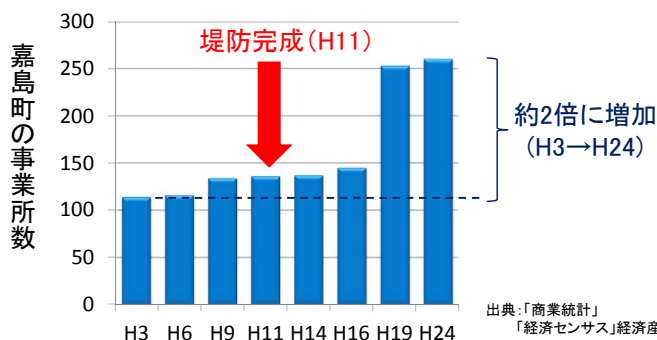
水害リスクの減少により、ショッピングモールや商工業団地の進出などで商業事業所数が約2倍に増加(H3→H24)、第3次産業従業者が約4倍に増加(H2→H22)など、地域発展に寄与

企業等の声

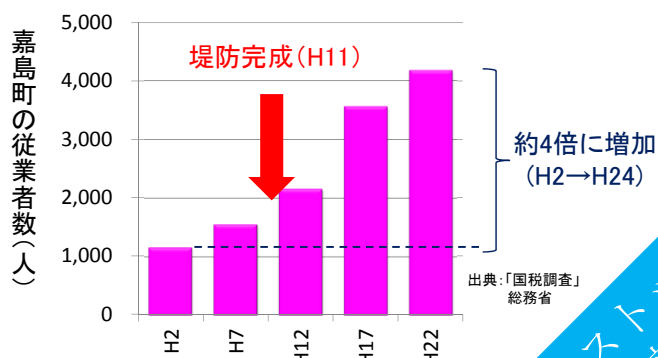
堤防ができたことによって、洪水の心配が少なくなった。企業誘致等町の振興にもつながっており、堤防整備に関して非常に感謝している(嘉島町長)

『いろいろ場所を探したが、水と緑が豊かであること、さらに堤防ができたことにより洪水の心配が無くなったため、この場所に進出を決めた』(企業)

商業事業所数が約2倍に増加



第3次産業従業者数が約4倍に増加



ストローク効果

# 九州東岸の 観光・産業を支援する東九州道

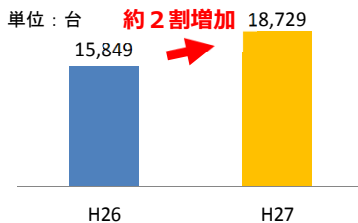


東九州自動車道(大分県・宮崎県)

● before >>> ● after



東九州道の整備により、魅力ある観光資源が身近になり、GW期間中の愛媛⇄大分間のフェリーの乗用車利用台数が約2割増加



愛媛～大分間フェリー3航路の乗用車計  
調査期間 (H26, H27): 4/29～5/6  
資料: 各航路事業者ヒアリング調査結果

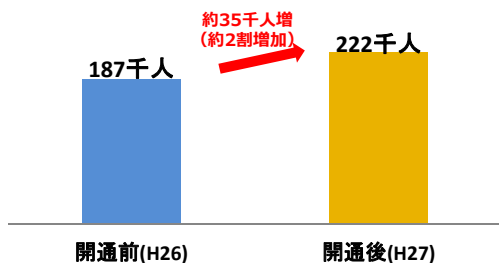


## ▲延岡市からの時間距離の変化

※所要時間は、大分市役所から佐伯IC、佐伯ICから宮崎市役所間の時間を整理  
短縮時間は未整備時(S63年当時)から開通後(H26年度末)の時間差

## 宮崎県主要観光地(11施設)の入り込み客数

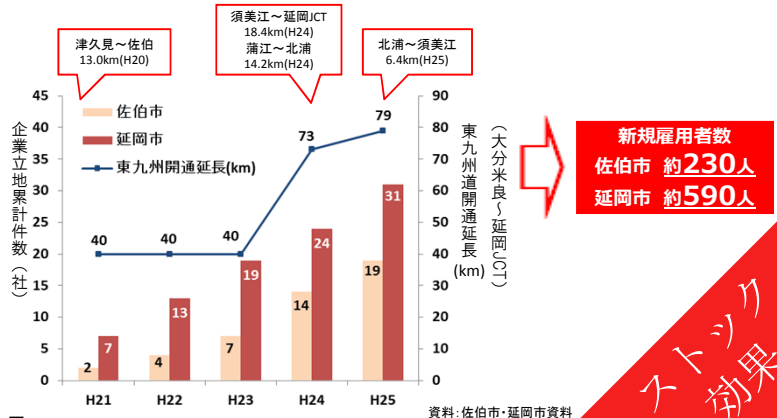
GW期間中の、観光施設等の入り込み客数が宮崎県で約2割増加



施設管理者ヒアリング調査結果  
調査日: [開通前]H26.5.3(土)～H26.5.6(火)  
[開通後]H27.5.3(日)～H27.5.6(水)

## 佐伯市・延岡市における企業立地件数

東九州道の整備を見越し、過去5年間で佐伯市では19件、延岡市では31件の企業立地



ストローク効果

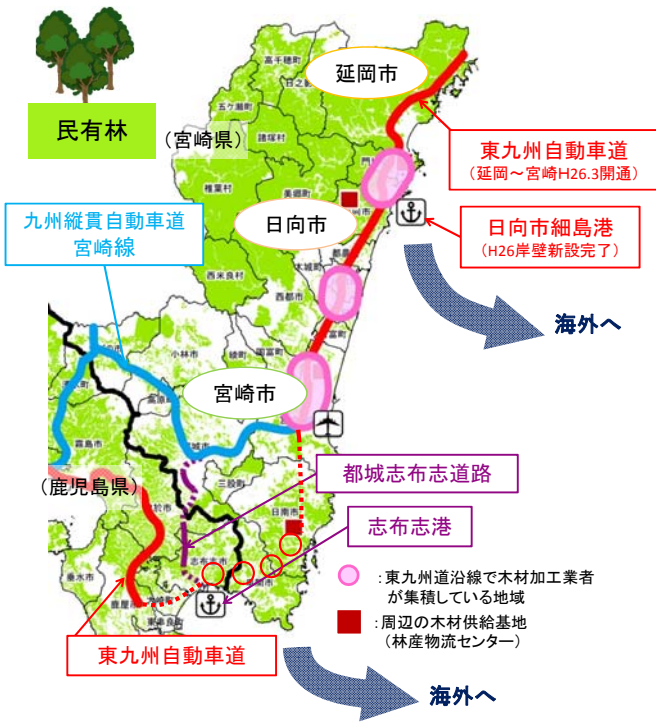
# 林業再生！

# つなぐ、ひろがる、輸出商機！

細島港・東九州自動車道・志布志港・都城志布志道路(宮崎県・鹿児島県)

## Before

## After



- 細島港や東九州自動車道整備の進展により、大手製材メーカーが進出
- 地域の木材を輸出する新規ビジネスにより国産材輸出量が急増し、林業が再生
- 経済成長の続く中国をはじめとしたアジア諸国の需要拡大を受け、木材の産地に近い南九州の主要港から輸出が急激に増加

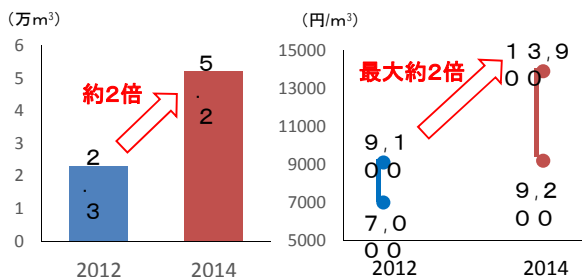
木材を港湾から海外(中国、台湾等)に輸出！！



地域の木材が輸出産業化

直近10年間の細島港周辺の経済効果

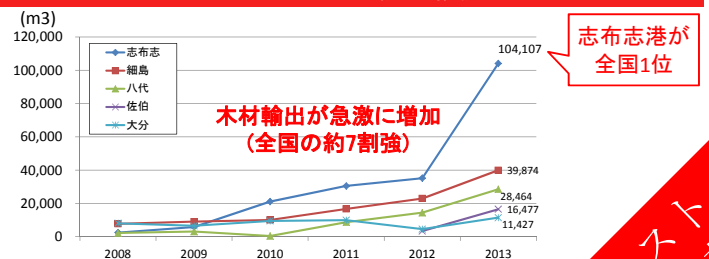
### ■ 木材輸出量増加 ■ 木材価格の上昇(宮崎県:スギ)



国産材輸出により林業再生、雇用増加

企業立地	設備投資	貿易額
39件	約740億円	約2倍増

九州主要港の木材輸出の推移



アップ  
効果

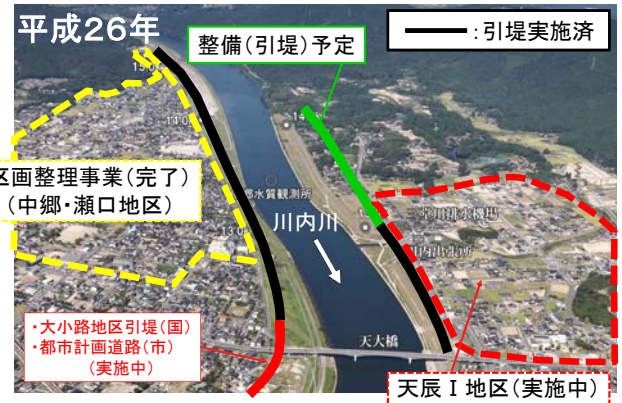
# 堤防整備と街づくりで 安全で活気あるまちへ



川内川改修事業(鹿児島県)

before

after



平成5年度から川内川両岸で堤防整備と区画整理事業を連携して実施し、平成20年度完成

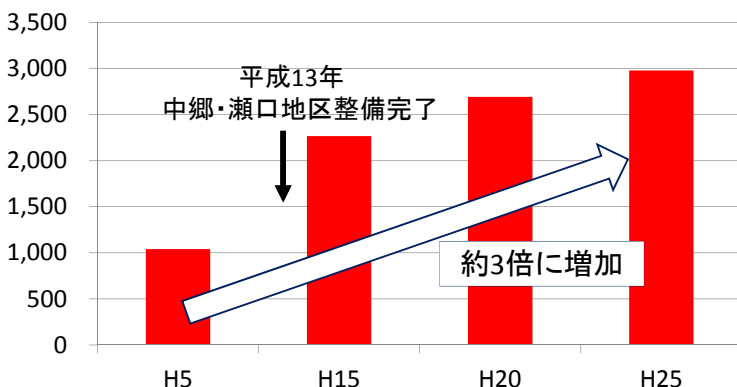
事業完了箇所では人口が増加傾向

<住民の声>

- ・昔は内水による浸水の心配があったが、最近は心配がなくなった。
- ・新しい堤防ができ、堤防を散歩する人が多くなった。
- ・区画整理事業で新たな街なみが形成され、人口が増えていることから、地元で活気が出てきた。

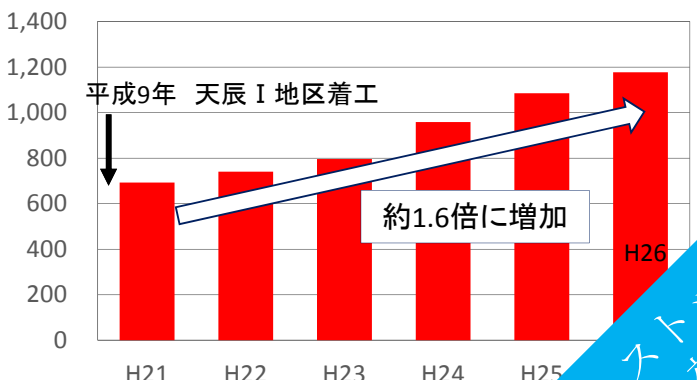
中郷・瀬口地区 事業完了箇所の人口動向

○中郷・瀬口地区においては年々宅地化が進み、当該地区の人口は20年前に比べて、3倍程度増加



天辰I地区内人口動向

○天辰I地区においては年々宅地化が進み、当該地区の人口は5年前に比べて、1.6倍程度増加



ストリック  
効果